

2016年度 日本文化人類学会
第4回理事会 議事録(案)

日時：2016年10月22日(土) 14時～17時30分

会場：東京大学 東洋文化研究所 3階 第一会議室

<出席者>松田、綾部、宇田川、小田、川田、栗本、桑山、湖中、高倉、棚橋、名和、真島、箭内、森山
<委任状提出>伊藤、岡田、慶田、佐々木、白川、田中、中谷、速水、三尾

〔承認事項〕

1. 2016年度第3回理事会議事録
2. 新入会員(15名)につき、総務会で入会を承認したことを報告の上で事後承認。
3. 2017年度人類学関連学会協議会合同シンポジウムへ本学会代表として、森田敦郎会員(大阪大)を派遣することが総務会原案として提案され、承認された。
4. 綾部理事より、2017年度からの会費体系の改定に関する会長名の文書案が提示され、文言調整の上、『文化人類学』81巻3号への挟み込みとJASCA-INFO配信、学会HPへの掲載を行うことが承認された。

〔報告事項〕

1. 庶務理事報告
 - ・前回理事会での決定にもとづき、2016年度朝日賞の学会推薦をおこなったことを報告。
 - ・9月に学会会員名簿が配布されたことを報告。
 - ・学会誌掲載論文の転載許可依頼が2件あり、規程通りの利用許諾基準にもとづき転載を許可もしくは学会の許可が不必要であることを先方に伝えたことを報告。
 - ・第12回日本文化人類学会賞受賞候補者についての投票が評議員によって行われ、本日理事会前の総務会にて開票が行われたことを報告。手順に則り評議員会への結果報告及び選考委員会への候補者推薦を進めることを報告。
2. 会計理事報告
 - ・第50回研究大会準備委員会より収支報告書及び大会報告書が提出されたことが報告され、内容について確認の上、承認された。特に、大会開催前の理事会決定に基づき、学会からの補助金120万円より託児所経費(託児所経費合計から託児所開設補助金と利用者負担分を差し引いた分)が支出されていること、学会への補助金返金額はその託児所経費を差し引いた額となることを確認した。また、余剰金については学会本会計へ組み入れることが承認された。
3. 総務理事報告
 - ・人類学関連学会協議会合同シンポジウムが10月11日に開催され、本学会代表として松尾瑞穂会員(国立民族学博物館)が登壇したことを報告。
 - ・平成29年度学会主催公開シンポジウムについて門田岳久会員(立教大)を組織者として準備を進めていること、平成29年度澁澤民族学振興基金助成(民族学振興プロジェクト)に応募したことを報告。
4. 広報理事報告
 - ・前回理事会以降、会員連絡用メーリングリストの運用内規に基づき15件のJASCA-INFO配信を行ったことを報告。
 - ・学会HPへ『文化人類学』の新旧の表紙を掲載予定であることを報告。
5. 各種委員会報告
 - ・『文化人類学』編集委員会：81巻3号の進捗状況を報告。書評について会員へ献本情報を新たに配信したことにより書評希望が増加していることを報告。また、表紙の写真については、今後は会員からの写真受付も行う方向で検討中であり、決定次第、学会誌及びJASCA-INFO、学会HPにて周知を行う予定であることを報告。
7月23日に開催した編集委員会において、査読制度改革ワーキンググループを立ち上げ、佐川徹委員を中心に査読制度に関する提案に向け情報収集を進めていることを報告。同時に、「資料と通信」のワーキンググループを立ち上げ、丹羽典生委員を中心に検討を行っていくことを報告。
 - ・JRCA編集委員会：Vol.17の進捗状況を報告。来年度に向け投稿を周囲に促すよう依頼を行った。
 - ・法人化検討委員会：学会に寄せられたパブリックコメントは現在0件であることを報告。
 - ・「国際情報発信強化」特別委員会：第3回国際シンポジウムについて、資料に基づき概要を説明。開催

日：2016年11月19日、場所：お茶の水女子大学、テーマ：「東アジアにおける人類学の国際化／グローバル化 第一部 韓国と日本」。

- ・国際情報発信強化特別委員会：Deja Lu 担当の速水理事欠席のため川田理事の代読により、2016年度のDeja Lu への投稿論文について、例年通り、今年の奨励賞受賞論文を送ることを報告。論文提出にあたっては、昨年と同様に著者本人の責任の下で英語版を作成、校閲まで済ませたものを担当理事に送ってもらうという手順を確認。提出された送付用論文について今年度は例外的に担当理事が最終チェックを行うが今後の体制については検討が必要であることを確認。

なお、Deja Lu では通常1年以内に発表された論文を掲載しているが、既に2016年にDeja Lu から本学会については2年以内のものも掲載するという合意を得ていることを確認。Deja Lu からは、提出時に2016年受賞論文であることを明記するよう依頼があったことを報告。

- ・国際化グローバル化対応委員会：本学会も投票した IUAES と WCAA の今後の関係のあり方についての選挙結果を報告。選挙結果では IUAES と WCAA が正式の協力関係を結ぶとの選択が大多数を占め、二院制を採ることが選択された。この結果を受けて両機関から選ばれた代表3名ずつがこれからの組織運営について議論を始めるプロセスに入ること、両機関をまたぐアンブレラ組織が構築されることになることを報告。また、今年の AAA 開催時の WCAA 会合には山本真鳥会員が出席することを報告。
- ・研究大会運営検討委員会：第50回研究大会報告書が提出されたことを報告。また、委員会で検討中の次の3点について報告がなされた。

①研究大会預け金については学会の財政状況を見つつ個別の大会の事情に合わせて柔軟な対応を検討していくこと。

②託児費について過去の各大会の収支を確認したこと、開催校の負担を増やすことのないよう柔軟な対応の検討と事例の収集をおこなっていくこと。

③長期的な判断資料とするため研究大会会計報告の書式を統一すること。

これらの点については担当理事と委員会で引き続き検討を行っていくことを確認した。

- ・地区研究懇談会：各地区の研究会開催状況、開催予定を報告。
- ・学会賞選考委員会：学会奨励賞の選考を行ったことを報告。
- ・次世代育成セミナー実施運営委員会：10月23日に西日本会場、11月6日に東日本会場で次世代育成セミナーを開催することを報告し、参加呼びかけを行った。

〔審議事項〕

1. 各種委員会について
 - ・第12回日本文化人類学会賞受賞候補者の開票結果を受け、学会賞選考委員会委員（5名）の委嘱が承認された。
2. 学会奨励賞の選考について
 - ・奨励賞選考委員会より、第12回奨励賞の選考経緯と選考結果の報告がなされ、審議の結果、原案通り承認された。選考結果については、学会賞・奨励賞の両賞確定後、例年通り、JASCA-INFO 及び学会 HP で周知を行うこととした。
3. 次世代育成国際研究集会助成について
 - ・平成28年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）国際情報発信強化の計画に基づき、「2016年度次世代育成 国際研究集会発表助成」の募集を実施したこと、担当委員による審査を行い、内定通知を送付したことが報告され、承認された。
4. 『文化人類学』編集に関して
 - ・真島理事と湖中理事より、次の2件について提案がなされた。
 - 1) 特集について、広く会員から特集企画を募集し、その特集を実際に組む際には編集委員会にゲストエディター（仮称）を迎えるという提案がなされ、審議の結果、承認された。
 - 2) 論文投稿フォームの変更について、資料に基づき新フォームの説明がなされた。フォーム中の「査読に関する希望」の項目に関し、査読者の決定については編集委員会に最終的な決定権があることを確認した。また、今後検討が必要な点として、査読希望無しの場合の記入欄の配慮や、フォームの文言や設問の調整、情報管理のルールをフォームに明文化する等が挙げられた。意見交換の結果、大筋としてはフォーム改定の方針が承認され、次回理事会での成立を目指し検討を続けることとした。
5. アイヌの祖先の遺骨と副葬品の取り扱い方に関するラウンドテーブルについて
 - ・松田会長より、理事会に先立って配布した資料「これからのアイヌ人骨／副葬品に係る調査研究のあ

り方に関するラウンドテーブル（中間まとめ）」について経緯説明がなされ、本学会に対しこのラウンドテーブルに加わってほしいとの要請があったことが報告された。これまでアイヌに関し本学会が見解を出してきたこと等の経緯に鑑み、学会としてまずはオブザーバーとしてラウンドテーブルに参加するという方針と、ラウンドテーブルに参加するメンバーはアイヌを専門とする人に限定せず、多方面の方に依頼するとの提案がなされた。意見交換の結果、ラウンドテーブルに学会として関わること、関わり方については会長が一度参加した後に決定することが承認された。

6. 会費改定に関する今後の工程について

- ・綾部理事より、会長名で『文化人類学』81巻3号に挟み込む予定の文書案が提示され、文言調整の上、文書の最終確定については総務会に一任することが承認された。

7. 第51回研究大会における理事会の前日開催について

- ・松田会長より、第51回研究大会時の理事会について研究大会準備委員会から前日開催の依頼があったことが報告され、本日出席の理事に第51回研究大会前日に理事会を開催する場合に出席可能かどうかアンケートが行われた。アンケート結果は準備委員会へ報告することとした。

8. その他

- ・松田会長より、2018年度の研究大会開催校について、検討依頼中の大学から、会場と当日のスタッフの差配・手配以外は理事会の支援が欲しいとの要請があったことが報告された。意見交換の結果、どのような対応や体制作りが可能かについて総務会と研究大会運営検討委員会において検討を進めることが承認された。
- ・名和理事より、J-STAGEへの移行の件に関し、先日開催された説明会へ出席したことが報告された。説明会に出席し明らかになったこととして、今後のスケジュールと、学会誌のweb掲載関連の作業は学会にとって純増となるが、かなりの作業量が予想されること、DOI登録の関係で記事を一度J-STAGE上へアップロードすると変更がきかないため公開前のチェックが重要であることなどが報告された。

今後、J-STAGEでの公開作業を進めるにあたり以下の方向で検討を進めることが提案され、承認された。

- ①J-STAGE 登載作業において原則としてXML形式を採用する。
 - ②新規に掲載予定の学会誌のうち、『文化人類学』80巻4号のみ形式が異なるため名和理事がJ-STAGEへの登載を試み、結果を理事会で報告する。
 - ③学会誌をJ-STAGEに登載する際に記事ごとにPDFファイルにする必要があり、ファイルの区切りをどこにするかは和文誌・英文誌の両編集主任と相談する。
 - ④将来的なことを考えると、和文誌・英文誌の各編集委員会にJ-STAGE担当を設けるのが現実的である。
 - ⑤『文化人類学』の「学会通信」など、J-STAGEで永続的に一般公開すべきか確認した方がよいと思われる記事もあるため、何を掲載するかについても検討を行う。
- ・川田理事より、学術会議公開シンポジウム「新科目『公共』に向けての文化人類学からの提言」（地域研究委員会人類学分科会主催、2016年12月18日開催）、「地域社会における外国籍生徒一義務教育以降の問題を中心に」（地域研究委員会多文化共生分科会主催、2016年12月23日開催）の2件について共催依頼が届いていることが報告され、審議の結果、本学会の共催が承認された。
 - ・川田理事より、国際情報化・グローバル化対応委員会の設置時に決定された委員会の役割・構成に基づき、本学会のWCAA Delegateに任命された窪田幸子会員（神戸大）を国際情報化・グローバル化対応委員に追加することが提案され、審議の結果、承認された。
 - ・川田理事より、WCAAのnewsletterをJASCA-INFOで配信することについて提案があり、審議の結果、承認された。
 - ・第5回理事会は2016年12月17日（土）於東京大学東洋文化研究所、第6回理事会は2017年2月11日（土）於東京大学東洋文化研究所。

以上